

1年生

		技能	知識・理解	数学的な考え方	算数への 関心・意欲・態度	
A 数と計算	ものの個数や順番を数えたり,加法及び減法の計算をしたりするなどの技能を身に付けている。		数についての感覚を豊かにするとともに,整数の意味と表し方や,加法及び減法の意味について理解している。	数の意味や表し方,加法及び減法の計算などについての知識及び技能の習得や活用を通して,数理的な処理に親しみ,考え表現したり工夫したりしている。	数の意味と加法及び減法の計算に親しみを持ち,それらについて様々な経験をもとうとしている。	
	・ものとものを対応させることによって,ものの個数を比べることができる。	・一つの数をほかの数の和や差としてみるなど,数の構成についての豊かな感覚をもっている。	・ものの個数や順番を正しく数えたり表したりすることができる。	・2位数の表し方について理解している。	・ものの個数を数えたり比べたりすることを通して,数の読み方,表し方,大小や順序について考えている。	・10 のまとまりを作って数えることを通して,十を単位とした数の表し方を考えている。
	・数の大小や順序を考えることによって,数の系列を作ったり,数直線の上に表したりすることができる。	・簡単な場合について,3位数の表し方を知っている。	・一つの数をほかの数の和や差としてみるることができる。	・具体物をまとめて数えたり等分したりするなど,数の大きさや構成についての豊かな感覚をもっている。	・1位数と1位数との加法及びその逆の減法の計算の仕方を考えている。	・1位数と1位数との 加法及びその逆の減法の計算の仕方を考えようとしている。
	・数を十を単位としてみるることができる。		・具体物を幾つかずつまとめて数えたり等分したりすることができる。		・簡単な場合について,2位数などの加法及び減法の計算の仕方を考えている。	・加法及び減法を用いて身の回りの問題を解決するなど,加法及び減法を進んで用いようとしている。
	・1位数と1位数との加法及びその逆の減法の計算が確実にできる。	・合併や増加,求残や求差など,加法及び減法の意味について理解している。				

B 量と測定	長さ,面積,体積を比較したり,身の回りにあるものの大きさの幾つ分かで表したり,日常生活の中で時刻を読んだりするなどの技能を身に付けている。		長さ,面積,体積の大きさについての感覚を豊かにするとともに,それらの量とその測定についての理解の基礎となる経験を豊かにし,また時刻について理解している。	長さ,面積,体積を比較したり,時刻を読んだりすることを通して,数理的な処理に親しみ,考え表現したり工夫したりしている。	長さ,面積,体積,時刻に親しみを持ち,それらについて様々な経験をもとうとしている。	
	・ものの大きさを直接比べる方法や媒介物を用いて間接的に比べる方法を用いて,長さ,面積,体積を比べることができる。	・長さ,面積,体積について,身の回りにあるものの大きさを単位として,その幾つ分かで大きさが比べられることを理解している。	・長さ,面積,体積について,身の回りにあるものの大きさを単位として,その幾つ分かで数値化し,比べることができる。	・身の回りにあるものの長さ,面積,体積の大小をとらえるなど,量の大きさについての豊かな感覚をもっている。	・長さ,面積,体積について,媒介物を用いて間接的に比べたり,身の回りにあるものの大きさを単位としてその幾つ分かで数値化して測定したりするなど,比べ方を考えている。	・長さ,面積,体積に関心を持ち,大きさを比較しようとしている。
					・媒介物を用いて大きさを比べることで,直接には比べられないものが比べられるようになるというよさに気付いている。	
	・時計の長針,短針を見て,時刻を読むことができる。	・時計の長針,短針の役割について理解している。			・身の回りにあるものの大きさを単位としてその幾つ分かで数値化することで,大きさの違いを明確にすることができるよさに気付いている。	・日常生活の中で進んで時刻を用いようとしている。

C 図形	形を作ったり,ものの位置を言い表したりするなどの技能を身に付けている。		ものの形についての感覚を豊かにするとともに,図形についての理解の基礎となる経験を豊かにしている。	身の回りにあるものの形についての観察や構成などを通して,数理的な処理に親しみ,考え表現したり工夫したりしている。	身の回りにあるものの形に親しみを持ち,それらについて様々な経験をもとうとしている。	
	・積み木や箱,色板や棒などを用いて,いろいろなもの形を作ることができる。	・身の回りにあるものの形の特徴(平ら,丸い,かどがあるなど)や形の機能的な特徴(ころがる,重ねられるなど)をとらえるなど,図形についての豊かな感覚をもっている。	・前後,左右,上下など方向や位置に関する言葉を正しく用いて,ものの位置を言い表すことができる。	・身の回りにあるものの形について,観察したり,構成したり,分解したりする活動を通して,図形についての理解の基礎となる経験を豊かにしている。	・立体の面の形に着目して,まる,さんかく,しかくなどを見いだしている。	・身の回りから,箱の形や筒の形,ボールの形をしたものを見付けようとしている。
		・前後,左右,上下などの言葉の意味について理解している。			・色板などをずらしたり回したり裏返したりして,いろいろな形を構成したり分解したりすることを考えている。	・積み木や箱,色板や棒などを用いて,いろいろなもの形を作ろうとしている。
				・ものの位置を言葉で表す方法を考えている。	・二つのものの位置関係を表すのに,前後,左右,上下などの言葉を用いようとしている。	

D 数量関係	場面を式に表したり式を読み取ったりすることやものの個数を絵や図などを用いて表したり読み取ったりするなどの技能を身に付けている。		数量の関係についての理解の基礎となる経験を豊かにしている。	場面を式に表したり式を読み取ったりすることやものの個数を絵や図などを用いて表したり読み取ったりすることを通して,数理的な処理に親しみ,考え表現したり工夫したりしている。	式に表すことやものの個数を表すことに親しみを持ち,それらについて様々な経験をもとうとしている。
	・加法及び減法が用いられる場面を式に表したり,式を読み取ったりすることができる。	・式に表したり,式を読み取ったりすることを通して,加法及び減法が用いられる場面の数量の関係について理解している。			・加法及び減法の式に表したり,式を読み取ったりすることに親しみをもっている。
				・加法及び減法が用いられる場面を,具体物や図などを用いて考え,式に表している。	
	・ものの個数を絵や図などを用いて表したり読み取ったりすることができる。	・ものの個数を絵や図を用いて整理して表すと,個数の大小が分かりやすくなることを理解している。		・加法及び減法の式を,具体的な場面に結び付けてとらえている。	・同じ種類の絵や図などを集め,個数の大小が分かりやすくなるような表し方を考えている。